



公開講座 京大知の森 (令和8年度春季)

【主催】 京都大学 【後援】 京都府、京都市

AI時代の 知性と衝動

270名

定員超過の
場合は抽選

参加費
無料

AIが1秒で「最適解」を出す現代。いつの間にか自分の好奇心や選択肢まで、効率の枠に閉じ込めていませんか？私たちは今、何のために何を学ぶのか。必要なのは答えの速さではなく、自分の中の違和感に向き合い、問い直すこと。哲学やコミュニケーションデザインの研究者と、この一見遠回りなプロセスから、AI時代を生き抜くための思考を紐解きます。中高生から社会人、子育てや教育に関わる大人まで歓迎。正解のルールを外れ、自分の歩幅で世界を拓くための「知性」と「衝動」を、京大で探ってみませんか。

— 京都大学でどう学ぶか



2026年 4月19日(日)

13:30~16:30 (13:00開場)

京都大学国際科学イノベーション棟5階
HORIBA シンポジウムホール

(京都府京都市左京区吉田本町)



谷川 嘉浩
(たにがわ よしひろ)

京都市立芸術大学 美術学部デザイン科 講師
(京都大学大学院人間・環境学研究所
博士後期課程修了)

13:35 - 14:25

「学びには、『主体性』も『モチベーション』もいらない」

世の中で重視される「主体性」や「モチベーション」は、個々人の特性を無視し、他者の期待に沿う従順さをもたらす抽象的な概念に過ぎないのではないだろうか。こうした無個性な主体性は、偶然の出来事によって自己が変化する可能性を抑圧してしまいます。本講演では、これらに代わるキーワードとして「衝動」を取り上げ、外部から何かがやってきて自分が突き動かされる状態について考えます。



塩瀬 隆之
(しおせ たかゆき)

京都大学 総合博物館 准教授 /
理事補 (広報)

14:35 - 15:25

「好奇心に突き動かされた問い、その先にある知性」

iPS細胞研究やフロンティア軌道理論などのノーベル賞級の成果展示、そして京都大学創立125周年記念展示にも、研究者の“好奇心”と“問い”に向き合う展示デザインが欠かせません。大阪・関西万博日本館では、「循環」の知を未来へどう受け継ぐかに心を砕きました。好奇心に突き動かされた小さな問いが大きな問いへ育っていく、その魅力ある旅路を伝える展示デザイン研究について紹介します。

講師による対談 (質疑応答)

15:35 - 16:25

谷川講師、塩瀬准教授

詳細・申込はこちら 京都大学ホームページよりお申込みください



京大知の森

検索

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/open-course/kyodai-chinomori>

申込受付期間：2026年4月9日(木)17:00まで

講義終了後、後日オンデマンド配信を行います。※当日ライブ配信は行いません。

問い合わせ 京都大学 成長戦略本部 社会連携推進担当
TEL.075-753-2606、event@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp